

日本エスペラント運動人名事典

Biografia Leksikono de la Esperanto-Movado en Japanio

柴田巖・後藤斉 編
峰芳隆 監修

国際語エスペラントの125年以上の歴史の中で、それを使い、広めるための運動は日本においても多彩に展開された。加わった人の多くは無名であるが、吉野作造、柳田國男、宮沢賢治、梅棹忠夫などの著名人も含まれる。本書は約2900人の物故者を取り上げ、その全体像とエスペラントに関連した活動や著作を紹介することにより、歴史的事実としてのエスペラントを記述する。エスペラントの位置づけに新たな視点を提示する。

☆日本エスペラント運動史年表付き



<p>新村出 しんむら いずる 1876.10.4~1967.8.17</p> <p>山口/静岡尋常中, 第一高等中(1896)大(1899)/旧姓関口, 号重山(ちょうざん)/言語学者, 文化史家。文学博士。新村出の父。東京高師教授ののち東大助教。1907~09年独英仏留学。帰国後は京大教授。『辞苑』、『広辞苑』を編集。日本言語学会会長, 京都市名誉市民など。56年文章。大阪市大, 天理大に新村文庫, 新村</p>	<p>山口/静岡尋常中, 第一高等中(1896)大(1899)/旧姓関口, 号重山(ちょうざん)/言語学者, 文化史家。文学博士。新村出の父。東京高師教授ののち東大助教。1907~09年独英仏留学。帰国後は京大教授。『辞苑』、『広辞苑』を編集。日本言語学会会長, 京都市名誉市民など。56年文章。大阪市大, 天理大に新村文庫, 新村</p>	<p>言語学会, 1969), 新村猛『広辞苑』物語(芸術生活社, 1970), 同編『美意延年 新村出追悼文集』(新村出追悼刊行会, 1981), 『新村出全集索引』(新村出記念財団, 1983), 『現代日本朝日人物事典』, 『日本キリスト教歴史大事典』。</p>	<p>あ い う え お か き く け こ さ し す せ そ た ち つ て と な に ぬ の ひ ふ へ ほ ま み む め も や ゆ よ ら り る れ ろ を</p>
<p>新藤英弘 しんとう ひであき 1881.8.~1945.3.29</p> <p>群馬/群馬師範/群馬県小学校校長を務めた後, 1914年東京本駒込で万年筆の製造, 販売を開始。ハンリ-万年筆製造所主, 滝野川町(東京)町議, 滝野川町学務委員など。06年JEA入会(会員番号189)。</p> <p>シンプキンズ William Lionel Simpkins 1894?~1972.1.12</p> <p>イギリス(銀行を退職して, たびたび世界旅行。1954年3月来日し, 東京, 松山, 亀岡, 岡山, 熊本などでE-istoと交流。58年4~9月再来日して, 多く藤本達生の同伴で横浜, 東京, 大阪, 福岡, 岡山, 新潟, 札幌, 小樽, 仙台, 静岡, 新居などを巡る。各地でE-istoと交流し, 新聞社を訪問, 国立療養所北陸荘(富山)の北陸荘E会も訪問。65年5月第50回UK(東京)のため来日し, 大阪などを訪問。オーストラリアもたびたび訪問し, 最期は米国で。E文の遺言により遺産をE団体などに遺贈。『Gis revido, japanaj samideanoj』(RO 1958.11), 『Kutimoj en multaj landoj』("Oomoto" 1965.5.6), 『De Jokohamo al San Francisco』("L'omnibuso" 11, 1966.1), 『S-ro Simpkins と旅しながら』(LM 1958.7), 『Simpkins 北へ行く』(LM 1958.8), 『A.E.A. heredis pli olS2000(U.S.)』("The Australian E-ist" 139, 1975.6.7)。</p>	<p>山口/静岡尋常中, 第一高等中(1896)大(1899)/旧姓関口, 号重山(ちょうざん)/言語学者, 文化史家。文学博士。新村出の父。東京高師教授ののち東大助教。1907~09年独英仏留学。帰国後は京大教授。『辞苑』、『広辞苑』を編集。日本言語学会会長, 京都市名誉市民など。56年文章。大阪市大, 天理大に新村文庫, 新村</p>	<p>言語学会, 1969), 新村猛『広辞苑』物語(芸術生活社, 1970), 同編『美意延年 新村出追悼文集』(新村出追悼刊行会, 1981), 『新村出全集索引』(新村出記念財団, 1983), 『現代日本朝日人物事典』, 『日本キリスト教歴史大事典』。</p>	<p>あ い う え お か き く け こ さ し す せ そ た ち つ て と な に ぬ の ひ ふ へ ほ ま み む め も や ゆ よ ら り る れ ろ を</p>

2013年10月中旬刊行

A5判上製カバー装 函入り 672頁 ISBN 978-4-89476-664-8 定価15,000円+税

〒112-0011 東京都文京区千石2-1-2 大和ビル2F <http://www.hituzi.co.jp>
TEL 03-5319-4916 FAX 03-5319-4917 toiawase@hituzi.co.jp



ひつじ書房

日本エスペラント運動人名事典

柴田巖・後藤斉編 峰芳隆監修
A5判上製カバー装 函入り 672頁
ひつじ書房
10月中旬刊行
ISBN 978-4-89476-664-8 C0521
定価 15000円+税

■収録人物中の著名人

秋田雨雀、安部公房、井上ひさし、伊波普猷、梅棹忠夫、大杉栄、丘浅次郎、黒板勝美、瑛九、江上不二夫、エロシェンコ、大石和二郎、尾崎行雄、小田切秀雄、川喜田二郎、北一輝、久保貞次郎、栗栖継、小林司、小林英夫、堺利彦、佐々木喜善、佐々木孝丸、ザメンホフ、柴山全慶、周作人、新村出、関口存男、高木仁三郎、高杉一郎、高見順、出口王仁三郎、土井晩翠、土岐善麿、徳富蘆花、中村精男、西成甫、新渡戸稲造、巴金、長谷川テル、比嘉春潮、二葉亭四迷、宮城音弥、宮沢賢治、八木日出雄、柳田國男、吉野作造、ラムステット、魯迅……

○こんな人も登場

芥川龍之介、暁烏敏、東龍太郎、内村鑑三、梶山季之、神近市子、木下順二、黒岩涙香、小松左京、西光万吉、佐藤春夫、更科源蔵、沢柳政太郎、島木健作、下中弥三郎、芹沢光治良、相馬黒光、高橋和巳、高見順、高村光太郎、田中館愛橘、都留重人、鶴見祐輔、手塚治虫、徳川家達、中野重治、野上弥生子、野間宏、長谷川如是閑、羽仁五郎、福田赳夫、星新一、穂積陳重、正木ひろし、宮沢俊義、宮本百合子、武者小路実篤、矢内原忠雄、山川菊栄、山川均、山田耕筰、湯川秀樹……

■編者・監修者情報

○柴田巖 (しばた いわお)

1963年大阪府出身。広島大学大学院社会科学研究所博士後期課程中退。学術修士。中国・四川連合大学出国留学予備人員培訓部外籍教師を経て、千葉工業大学工学部専任講師、助教。2010年没。

主な著作

『中国・民主への提言—日本人は"六・四"をどう見たか』(共著、谷沢書房、1990)、「長谷川テル研究—日中戦争・中国における反戦活動の軌跡」(『千葉工業大学研究報告 人文編』35号、1998)、「栗栖継主要著作目録」(『千葉工業大学研究報告 人文編』40号、2003)、『中垣虎児郎—日中エスペランティストの師』(リベロイ社、2010)など。

○後藤斉 (ごとう ひとし)

1955年宮城県出身。東北大学大学院文学研究科博士後期課程中退。文学修士。山形県立米沢女子短期大学講師、東北大学文学部助教授を経て、現在、東北大学大学院文学研究科教授。財団法人日本エスペラント学会評議員、理事などを歴任。2006年小坂賞受賞(共同)。

主な著作

R.H. ロウビンズ『言語学史 第三版』(共訳、研究社、1992)、『エスペラント常用 6000語』(大学書林、1993)、『エスペラント日本語辞典』(共編、日本エスペラント学会、2006)、『エスペラントを育てた人々—仙台での歴史から』(創栄出版、2008)、木村護郎・クリストフ・渡辺克義編『媒介言語論を学ぶ人のために』(分担執筆、世界思想社、2009)など。

○峰芳隆 (みね よしたか)

1941年兵庫県神戸市出身。新日本製鉄に勤務しつつ、鉄鋼短期大学(現産業技術短期大学)卒業。1967年エスペラント運動史研究会設立に参加。関西エスペラント連盟で事務局長、編集長を歴任し、現在、顧問。その間、「Riveroj」誌(全26号)を編集。日本エスペラント図書刊行会とリベロイ社で書籍の編集。Grabowski賞選考委員。2008年小坂賞受賞。

主な著作

『日本エスペラント運動人名小事典』(共編、日本エスペラント図書刊行会、1984)、「Verkoj de V. Eroŝenko (エロシェンコ選集)」全6巻(編、日本エスペラント図書刊行会、1979~1996)、「宮沢賢治におけるエスペラント」(『国文学 解釈と鑑賞』65巻2号、2000)、「ラムステット公使とエスペラント仲間」(百瀬宏・石野裕子編著『フィンランドを知るための44章』明石書店、2008)など。